令和４年度地域連携推進センター地域活動支援事業

地域活動実施報告書（A）

令和　５年　３月　１６日

メンバー（所属） 〇＝代表者	○　神谷睦代（新潟県立大学） 筒井悠介・長谷川天音・松本悠妃（人間生活学部子ども学科３年） 田村輝美（新潟市こども創造センター）

活動テーマ

「学生×こども　創造たいけんプロジェクト（2022 年度）」（新潟市こども創造センター企画）

活動の目的

①新潟市の未来担う子どもたちの『生きる力』や『共にいる力』を育むために、教育機関（新潟県立大学）と公共施設（新潟市こども創造センター）とが連携し、芸術の楽しさやすばらしさを体験できる能力を提供する。
②学生と子どもたちがそれぞれの主体性を発揮しながら、共に学び合い、人との繋がりや交流の楽しさを体験する。

活動の内容

「学生×こども　創造たいけんプロジェクト（2022 年度）」（会場：新潟市こども創造センター）
本プロジェクトでは全２回（８月・１月）の造形ワークショップを実施しました。
【第１回造形ワークショップ】
　日時：2022 年８月７日（金）9：00～12：00　場所：ものづくり広場
　テーマ：「折り染めによるうちわづくり」　　参加者：親子 10 組
　和紙を本格的な染料によって着色し、うちわに加工しました。折り方や染料の選び方により、オリジナルで多様な模様が生まれます。染色後に折りたたんだ和紙を広げた瞬間には、子どもたちから「わーきれい」と歓声があがりました。「折り染め」と「うちわづくり」によって驚きや不思議さのあるアート経験を日常の生活に結びつけ、美的で創造性豊かな暮らしをめざします。この活動では、教員が主導となり学生２名がアシスタントとして参加しました。学生らは、子どもたちの試行錯誤に寄り添いながら言葉かけと援助を行いました。最後に、子どもたちと学生と教員によって、完成したうちわをもって記念撮影を行いました。

（作り方の説明をしています）

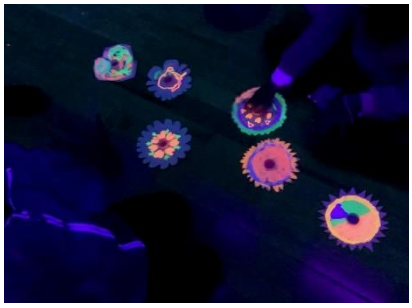
（美しく鮮やかなうちわが出来上がりました）

【第 2 回造形ワークショップ】
日時：2023 年 1 月９日（月）9：00〜12：00　　場所：ホール
テーマ：「ブラックライトの世界を体験しよう！パネルシアターとキラキラ☆光るコマ作り」
参加者：親子 20 組
このワークショップでは、学生 3 名が主体となり進行しました。最初に学生手作りのパネルシアター「うさぎとかめのその後」（今年の干支「卯」にちなんで）を実演し、ブラックライトを活用したアートの魅力を紹介しました。コマ作りの場面では、子どもたちは「何描こうかな」「もう一個作りたい！」など意欲的に表現や遊び方を工夫して、学生も圧倒されるほど盛り上がりました。ブラックライトに照らされたコマは幻想的な世界を生み出し、参加者全員が楽しく感動的な時間を過ごせました。（※新潟市こども創造センターのホールは、国内でも稀少なブラックライトの照明を完備しており、家庭や学校等では、体験できないようなアート空間が実現可能です。）

（こんにちは。県大の学生です！）

（「うさぎとかめのその後」のお話）

（蛍光ペンやクレヨンで描きました）


（ピカピカ光ってきれいだね）

（うまく、回せるかな？）

（全員集合でハイポーズ！）

【成果】第 1 回・第 2 回のワークショップ実施により、活動の目的①・②は概ね達成できたと考えられます。この度の新潟市こども創造センターとの連携を通じて、大学における研究成果や学生の実践力の地域への提供及び有用性を実感できました。同時に、学生自身は学業・実習・ボランティア活動等で培った能力を主体的に発揮し、子どもや保護者とのふれあいや創造的な場を経験できる貴重な機会となりました。本活動は新潟市こども創造センターと大学の教育研究、学生・親子の交流、それぞれにとって、互恵的な地域活動と捉えられます。そこで、今回の活動の反省や課題を基に、造形・アートによる「学生×こども　創造たいけんプロジェクト」は次年度に繋げていく予定です。
【広報】本事業は、新潟県立大学公式 Facebook、
新潟市こども創造センターの公式 HP（www.ikutopia.com/facilities/kodomo/）
インスタグラム(www.instagram.com/kodomo_souzou_center)
によって、地域の親子に広く案内及び紹介されました。他、令和 4 年度「地域活動・学生交流発表会」（主催：新潟地域連携コミュニティ事務局）の意見交換会及び成果発表会においても報告されました。

令和４年度地域連携推進センター地域活動支援事業

地域活動実施報告書（A）

令和　４　年　３　月　３１　日

メンバー（所属） 〇＝代表者	○　石井玲子（人間生活学部子ども学科教授/ピアニスト） 斉藤美和子（人間生活学部子ども学科名誉教授・非常勤講師/ピアニスト） 櫻井綾（人間生活学部子ども学科非常勤講師/声楽家（ソプラノ）） 片桐寿代・梅津幹子・品田真彦・本間優 （人間生活学部子ども学科非常勤講師/ピアニスト） ゲスト出演者（学外協力者） 佐々木友子・阿部智子（ヴァイオリニスト）田村亮太（サックス奏者）

活動テーマ

新潟県立大学音楽教員と仲間たちによる『ニューイヤーコンサート～映画音楽とともに～』の開催

活動の目的

新潟市秋葉区との連携事業として、県内トップレベルの演奏家の演奏を地域の多くの人々が聴ける機会を設けて、音楽の素晴らしさを体感してもらい、地域の文化芸術の振興を図ることが本事業の目的である。地域に根差した活動を行うことで、まちづくりや地域の活性化に貢献していきたい。

活動の内容

１・活動概要

１月９日（月/祝）に人間生活学部子ども学科の音楽教員７名とゲストの演奏家３名が出演する「ニューイヤーコンサート～映画音楽とともに～」が新潟市秋葉区文化会館で開催された。新潟市秋葉区文化会館との連携事業として行い、新潟市内を中心に市内外から幅広い年代（50 代～70 代が中心）の来場者があり、会場は計 442 名の観客で熱気に包まれた。終演後の観客アンケートの結果から、本公演が非常に好評であったといえる。

２．コンサートの内容

約１時間 30 分のコンサートのプログラム前半は「映画の中で使われるクラシック音楽」と題し、映画によく使用されるクラシック音楽の名曲を演奏し、後半は「映画音楽名曲選」として、映画のために作曲された映画音楽の名曲を演奏した。ピアノソロ・連弾、２台ピアノ、ソプラノ、ヴァイオリン、サックスの楽器でのアンサンブルやソロを弾いた。主なプログラムは以下の通り。

～映画の中のクラシック音楽～	～映画音楽名曲選～
ショパン：ノクターン第 20 番 遺作	映画『ニュー・シネマ・パラダイス』他「モリコーネ・パラダイス」
練習曲作品 10 第３番「別れの曲」	映画『パイレーツ・オブ・カリビアン』より「彼こそが海賊」
バッハ：G 線上のアリア	映画『シンドラーのリスト」より テーマ曲
マスネ：タイスの瞑想曲	映画『ティファニーで朝食を』より「ムーン・リヴァー」
ファリャ：火祭りの踊り　　他	映画「ミッション・インポッシブル」より テーマ曲　　他

３．コンサートの様子

令和４年度地域連携推進センター地域活動支援事業

地域活動実施報告書（A）

令和５年４月５日

メンバー（所属） 〇＝代表者	○　小澤薫（新潟県立大学　人間生活学部　子ども学科　准教授） 権寧俊（新潟県立大学　国際地域学部　国際地域学科　教授） 新井貴大（新潟県立大学　国際地域学部　国際地域学科　助教）

活動テーマ

新潟における多文化共生推進に向けた実態把握

活動の目的

新潟県国際交流協会、新潟市中央区社会福祉協議会と共同で、新潟県で暮らす外国にルーツのある方の実態調査をする。在住外国人施策に向けた基礎資料を作成する。

活動の内容

実施内容

新潟県、新潟県国際交流協会、新潟市中央区社会福祉協議会と共同でアンケート調査を行った。

調査対象：新潟県内に在住する外国にルーツのある方

調査目的：在住外国人のニーズや現状を把握し効果的な支援に取り組むため、全県を対象とした社会調査を実施する

調査期間：2022 年 10 月

調査方法：郵送（協力自治体から登録住所へ発送・17 市町村 5,566 名）、チラシ配布・配信（関係機関に回答用の QR の記載があるチラシを配布・大学、民間団体、外国人コミュニティ、経済団体など 268 ヶ所に依頼、新潟県国際交流協会の HP に掲載）の組み合わせ。回答は、どちらもウェブアンケートフォームを使用

仕様：やさしい日本語、英語、中国語（簡体字・繁体字）、韓国語、ベトナム語、タガログ語、タイ語の 8 言語。無記名回答。

質問項目：共通項目（日本語のこと、困りごとの相談先、公的機関等の利用に対する不安、必要な情報源、日本人との交流、日常生活での困りごと、外国人コミュニティ、災害への備え、SNS、差別の経験）と在留資格別項目（永住者、技能実習生、留学生）の 2 段階。

成果

・回答者数：1044 名（36 の国と地域）

・「あなたは日本語でどの程度会話できますか」の問いに対して、「日本人と同じように話せる」は 13%

・「日本語はほとんど話せない」は 16%で、これは特に技能実習生で高い（30%）

・日本での生活で困っていることについては、第 1 位「お金」45%、第 2 位「言語の問題」40%

・公共機関・医療機関を利用するにあたって不安なこととして「ことばが通じるか不安」が 46%

・日常的なことばの不安、経済的な不安を抱えながら、暮らしている方が多い

・永住者は 70%が永住を望んでおり、技能実習生は「就業の継続」「特定技能への移行」希望の合計が 70%を超えていた。